

出席：小澤・石川・塩谷・小西・松村・長澤・渡部・石田・廣田・山本（晋）・好本・木村・
岡本・山本（伸）・山本（真）・坂本
オブザーバー：隈（全国理事）

出席した各役員の自己紹介、支部長の挨拶に引き続き、次の各議題の報告及び審議を行った。

1. 異動等による役員の欠員補充について

小佐野、三角、中垣、内野、江口、大野、中江、熊原各氏の異動等による役員失格・辞退に伴い小澤（大阪管区气象台）、長澤（大阪管区气象台）、石田（日本気象協会関西支社）、廣田（神戸海洋气象台）、好本（広島地方气象台）、木村（高松地方气象台）、山本（伸）（大阪管区气象台）各氏の役員就任が報告された。

2. 支部助成の奨励金への一本化について

昨年理事会において、恵まれない環境で調査研究を推進している個人、グループに対して行う奨励金の制度をより充実し、グループ助成については廃止する方向を検討していることを報告した。その後、常任理事会で議論を続けてきたが、「日本気象学会関西支部調査研究奨励基金及び調査研究奨励金授与規定」の改正と、「運用に関する内規」および「研究グループ助成要領」を廃止して奨励金への一本化を行う旨、今回の理事会で提案した。

主な内容は「奨励金受領者は支部ニュースによって募集を行い原則として年1件とし、奨励金は1件10万円とする。基金はかつて日本気象協会関西本部から寄付されたものを宛てる。」というものである。

席上特に反対意見はなく、「支部助成の奨励金への一本化」は理事会の承認を得た。

3. 総会資料の検討

2006年度の事業報告（案）、会計報告（案）、及び会計監査報告（案）の説明が各担当から行われた。

続いて、2007年度事業計画案と予算案について担当理事から説明があった。夏季大学については「地球温暖化の現状と将来」と題して京都で開催する予定であること、また関西気象予報士会と共催で「気象サイエンスカフェ」を東京と同様な形態で開催することを目指しており、その第1回は12月初旬に予定していることが事務局から報告された。

さらに、中国地区例会が11月10日に岡山市で、四国地区例会が11月30日に高知市でそれぞれ計画されていることが各地区理事から報告された。

夏季大学の参加者が年々減少しており、各大学や各府県の教育委員会を通じたより積極的な広報活動を展開する必要性が強調された。また、地区理事から夏季大学のテキストの残部がかなり出ていることに関連し、テキスト印刷数の縮減が提案された。検討の結果、今年度からは200部と昨年までより50部減らすことが決まった。

この夏季大学予算案を修正したうえで、事務局が提案した総会資料は理事会の承認を得た。

2007 年度気象学会関西支部総会及び年会 要旨

2007.06.23 13:00~14:00 (総会) 14:15~16:30 (年会)

<2007 年度気象学会関西支部総会>

長澤理事の司会で総会が始まった。最初に総会成立審査を行い、担当役員から参加者と委任状をあわせて 116 名あり、全支部通常会員数 187 名の過半数を超え総会は成立する。通常会員のみで総会資料を送付し、委任状の提出を求めるはじめての総会となったが、今後も折に触れ通常会員と特別会員の違いを周知するとともに、必要に応じて通常会員への切り替えを行っていただくよう各会員にお願いしていきたい旨の説明があった。

続いて、小澤支部長から関西支部会員のニーズに即した支部活動を行っていききたいとする開会の挨拶があり、その後は、京都大学の堀口会員を議長に選出し議事が進められた。

用意された 2006 年度事業報告・決算、2007 年度事業計画・予算ほかその他の議案については原案どおりすべて賛成多数で承認された。

議案の審議が終了した段階で正木明会員から「総会の成立を容易にするために通常会員のみで議決権を与えることになったが、広報の不足から自分の意図に反して特別会員扱いになっている会員も多く居られるのではないか。このような方は、インターネットが自由に使えない年配の方なども多く、支部の情報から疎かになっていると思われる。益々気象学会の会員離れを進ませる原因になりかねないので、総会資料が郵送される通常会員への切り替えの推奨や全会員が誰でも目にするように支部の広報活動の充実が望まれる。」との意見があった。

これに対して支部役員から「はじめに説明したように通常会員への切り替えについては今後も折に触れ周知を図っていく。」「会員すべてにいきわたる機関紙天気「支部だより」を用いた関西支部の情報提供について、今回の総会は 3 月号に、夏季大学の開催は 5 月号にそれぞれ掲載してもらっており、かなり事前の周知を行ったと考えている。今後も積極的に「支部だより」を活用した広報を行って支部の情報に疎い方がでにくい形に持っていきたい。」とした。

<2007 年度気象学会関西支部年会>

総会では多かった空席が年会では発表に関係を持つ学生らの出席によりかなり埋まった。発表件数は 8 題と昨年に比べ 4 題少なかったため、発表時間は質疑も含め 15 分と昨年より長めにとることができ、発表者に対して有益なコメントを提供することができたと考える。

座長は前半を塩谷理事、後半を石川理事が担当し、それぞれの発表と質疑が行われた。今回の発表内容はウェブカメラを用いた局地的な雲の観測から熱帯地方を中心とした地球規模の気象解析まで幅広いものとなり、熱心な発表と質疑が繰り広げられ有意義なものとなった。